

田園再生セミナー in 名古屋 for COP10

～自然と共生する農村づくり～



一月十五日、農林水産省と（社）農村環境整備センター主催で「農村の生物多様性保全に向けた今後の展開」について議論するセミナーがウインクあいち（名古屋）を会場に開かれた。
保存会は「生き物と共生したこめづくり・村づくり」を主題に、ポスターセッション（写真左）に出席。また、パネルディスカッションではパネリスト（写真下）として実践活動などの発表を行った。



農林水産大臣賞受賞



本セミナーの中で、「田園自然再生活動コンクール」入賞事例の表彰式も行われ赤松農林水産大臣から賞状が授与されました。
赤松大臣、進士審査委員長は保存会のメンバー（松下誠、高橋孝行、原田英史、小山舜二）と受賞記念写真にも快く応じていただき、大きな感激を頂戴した。

四谷の

千枚田だより



第78号

春めいて棚田に藁を焼くけむり
水音をつなぐ棚田に春出水

海老 今泉美知子



「いのちの共生を、未来に」



【COP10 ロゴマーク】

大臣記者会見

一月十九日、赤松農林水産大臣は農林水産省会見室において記者会見が行われた。記者の「来年度、予算にも含まれている名古屋でCOP10が行われるので、大卒の方向性を確認したい。」と、突然の質問のなかで、COP10パートナーシップ事業の田園自然再生コンクールが名古屋であり、是非、自分の勉強のためにもと参加させていただいた。その時、大臣賞ということで、鞍掛山麓千枚田保存会、非常に素晴らしいところ(生物多様性に富んだ)ですが、そこを表彰したわけですが・・・等々、大臣の自然な発言のなかでコンクールのことと、鞍掛山麓千枚田のことに言及されました。

大臣は、表彰式前に稲垣副知事、農水省局長を交え、二十分間の会見の場を作っていたとき、我々の活動、取組を非常に素晴らしいと評価をいただきました。

第十六回ふるさと・水と土指導員

実践活動リーダー養成コース研修会

二月二日・三日、全国水土里ネット主催のふるさと指導員実践活動リーダー全国研修会が三島市民文化会館で行われ、愛知県ふるさと・水と土指導員小山舜二が受講した。

研修 ①ワークシヨップ(寄り合い)では市街点検、まちづくりの提案など、グループごとの纏めかた等を学んだ。

ワークショップ



②地域の魅力資源&課題発見歩きでは三島市の駅前商店街は約十五年前まではシャッター街の比率が三〇四割であったが現在は空き店舗が一軒もなく活気にあふれている。

「水の都」三島市は湧き水の減少やゴミの放棄、雑排水の混入で環境悪化に苦しむ街も沈滞化していた。市民はふる里・三島を取り戻そうと「右手にスコップ、左手に缶ビール」をキャッチフレーズに源兵衛川の再生に立ち上がった。今ではホテルも飛び交い、絶滅した三島梅花藻の復活を果した。観光客も年間数万人から三十五万人余に達している。その取り組みの手始めとして、東京の観光会社と「源兵衛川のゴミ拾いツアー」を企画。都市住民の環境意識が

源兵衛川の再生に大きく貢献、これを事例に数々の地域活動(企業連携、ピオトープ造成など)に拍車がかかった。等々、地域資源を活かした都市づくり、また、その拠点として「グランドワーク三島」が大きな役割を果たしていることが何われ、有意義な研修であった。

作業道の補修

二月七日、十四日、保存会は千枚田入り口付近と古宿からの作業道(景観道)の陥没箇所補修を行った。この、補修作業は「あいち森と緑づくり」事業の交付金を活用して実施した。



心配事：平成十四年、ふるさと水と土ふれあい事業で整備された施設(ベンチや四阿の屋根など)も老朽化、今後のメンテの行方に心が痛む。特に、本年はCOP10開催にちなみ外国からの訪問や、数多くの観覧会が計画されているから、なおさら心配だ。

COP10特別番組

愛知県COP10特別番組「森のいのち、つないでいこう」愛知の森の美しい物語」と題してタレントのまえだまへだとお笑い芸人のアメリカザリガニが軽快なテンポで四谷の千枚田や県内山間部をロケし、三月十四日(日)、CBCテレビ午後四時から放送されます。

愛知県はこの番組をDVD化して、県内図書館や教育関係等に配布予定。またCOP10関係のイベントやWEB等でも公開される。

保存活動現地調査

大阪府は、農林行政に携わる若手職員を中心として「遊休農地が少ない地域ではどのような活動をしているか等」について調査検討している。その一環として全国農村振興技術連盟「農村振興」第718号の掲載記事「四谷の千枚田から」を読み、その事例を収集して新たな方策の参考にした。趣旨から二月二十七日、その、メンバーが千枚田を訪れます

行 平成二十二年二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二